



ペア・オリーブ有限会社  
代表取締役  
坂田 幸枝 さん

### ペア・オリーブ有限会社

横浜市青葉区にて、訪問看護ステーション、複合型サービス、デイサービスなどの運営。施設内には、お客様のためのメディカルアロマサロンも併設。また、学びや経験を活用した福祉サービス事業のコンサルティングや講演活動を行っている。



(左上)入口で出迎えてくれるイラストは、会社名の「ペア・オリーブ」をイメージして書かれたもの。たくさんの幸せの果実が実を結ぶことを願って描かれた。(左下)スタッフが使っているアロマオイル。セラピストが症状に合わせてオイルを処方してくれる。(右)デイサービスルームでは、専任のセラピストによるフットマッサージが行われる。通所されるお客様にも評判



「患者さんの痛みを和らげる方法はないものか……」。看護師時代、幾度となくそんな場面に立たされていた坂田幸枝社長。そんな時に、当時のスタッフが看護協会主催のアロマの勉強会に参加し、報告を受け「これならいいけるかも」と、取り組んだのが約18年前だったそう。当時、まだアロマに対する知識が不足しており、医師や患者さんへの理解を得るのが大変なご苦労もあったようだ。

しかし、当時肺気腫で苦しんでおられた患者の胸にアロマを用いたマッサージを行うことで症状が改善。介護されていた娘さんもアロマによって癒され、介護する側にもされる側にも良い影響を与えることを目の当たりで体験したこと

# 『諦めない看護』を実践。 100歳まで自分で歩くがコンセプト。

が初めの一歩となつたそうだ。

訪問看護師として、リハビリの依頼でまず着目したのが、足のむくみや膝が曲がらないことで歩行困難となり、外出で行きないご利用者様が多くいることだった。痛みに耐えている方にアロマを取り入れ溜まつた老廃物を流すことで痛みを緩和。それにより、お客様やご家族からも「アロマをしてほしい」とオーダーされるほどに。「手当」という言葉があるくらいですから人の手に勝るものはない」と話す。10年かけて開発した技術を、現在訪問看護やデイサービスの看護スタッフおよびセラピストに受け継いでいる。

「どここの看護師さんも現場に立つと、

いろんな場面であらゆる葛藤に直面します。その時「こんなに苦しんでいる方をどうにかしたい!」という『あきらめない看護』がアロマにたどりついたのかもしれませんね」と話す。

坂田社長自身も熱いスタッフに囲まれ、現在も諦めない看護を実践。「歩ける足であつてほしい」。そんな思いもあり、デイサービスではフットマッサージを取り入れたり、メディカルアロマサロンも開設して、定期的なケアを行っている。これからは「医療従事者とアロマセラピストがうまく融合して、いろんな可能性を開拓していく」と語る。